

## 大統領の故郷訪問

フィリピン・マラカニアン宮殿での晩餐会で食事と交流を楽しみ、豪華なホテルで体を休めた。2日目はドゥテルテ大統領の要請で、彼の故郷ミンダナオ島のダバオ市を訪問することになっていた。早朝4時に起床してニノイ・アキノ空港へ向かった。

真つ暗な滑走路内に臨時の税関ゲートが作られていた。もちろん、われわれミッション団のためだけに用意されたものだ。手荷物の検査を終え、50歳ほど歩き、移動式タラップから政府専用機に乗り込んだ。垂直尾翼に日の丸をあしらった機体は登り始めた朝日に輝いていた。「ヒコーキ野郎」の私にとって専用機への搭乗は一生の思い出となるだろう。専用機は万一のトラブル

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 24



（中央）安倍首相（右）ドゥテルテ大統領（左）フィリピン

## 現地での熱狂的な歓迎ぶり

ルを考慮し、常に2機体制で飛行していることは知っていたが、経費を心配してしまつのは中小企業の経営者の性ゆえだろう。

政府専用機はパイロットからキャビンアテンダントまで全て航空自衛隊が

担当している。韓国の文大統領の移動は大韓航空からリースされたもので、それが国力の違いだろう。文大統領も専用機をほしがっているかもしれないが、野党時代に専用機導入に大反対した経緯があるだけに実現しないだろう。

われわれがダバオに到着した時に迎えた市民、とりわけ子どもたちの歓迎は熱狂的だった。大統領や市長が「安倍総理一行を歓迎するよう」と呼びかけていたとしても、あれほどの盛り上がりにはならないだろう。私は20年余りフィリ

ピンを行き来しているが、フィリピン人は本当に日本人を尊敬している、大好きであることを改めて実感した。日本の首脳があればほどの歓迎を受けたいことに、日本国民として誇りに思うと同時に、これほどの歓迎を受けるのが世界にいくつあるのだろうか、と考えた瞬間だった。残念なことに世界に向かつて胸を張れるこのニュースを日本のメディアはほとんど報道しなかった。自国の総理が海外で高く評価されているシーンを国民に見せたくないのだろうか。さて、世界的には何かと注目を集めるドゥテルテ大統領だが、国内では9割という支持率を維持している。実際に会って話してみると、田舎の優しいオジサンという雰囲気、とても好感が持てた。